

■京浜盃（SII）アラカルト（過去全 41 回の分析）

※第 25 回（平成 14 年）から第 26 回（平成 15 年）までは大井ダ 1,690m で実施
※記録は平成 31 年 3 月 6 日時点

■ 1 番人気馬の 3 着内率は 7 割弱

単勝 1 番人気馬は 19 勝、2 着 7 回、3 着 2 回で、3 着内率が 68.3%、単勝 2 番人気馬は 10 勝、2 着 6 回、3 着 6 回で、3 着内率が 53.7%、単勝 3 番人気馬は 8 勝、2 着 9 回、3 着 3 回で、3 着内率が 48.8%となっている。単勝 1 番人気馬をはじめとする上位人気馬がそれなりに信頼できるレースと言えそうだ。

■ 9 割以上の回で 3 番人気以内の馬が勝利

過去 41 回のうち 37 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。また、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 19 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 5 回ある。

■ 優勝馬の大半は大井勢と船橋勢

所属別の勝利数を見ると、浦和が 2 勝、船橋が 16 勝、大井が 19 勝、川崎が 4 勝となっている。船橋と大井で全体の 9 割近くを占めている計算だ。

■ 牝馬は 4 勝、外国産馬は 1 勝

牝馬の優勝例は第 4 回（昭和 56 年）のコーナールビー、第 12 回（平成元年）のロジータ、第 15 回（平成 4 年）のカシワズプリンセス、第 34 回（平成 23 年）のクラーベセクレタと、4 例ある。なお、外国産馬の優勝例は第 28 回（平成 17 年）のシーチャリオットのみである。

■ 騎手別の歴代最多勝記録は「5」

騎手別の勝利数を見ると、5 勝の石崎隆之騎手が単独トップ。高橋三郎騎手、的場文男騎手が 4 勝で 2 位タイ、戸崎圭太騎手、森泰斗騎手が 3 勝で 4 位タイとなっている。

■ 調教師別の歴代最多勝記録は「3」

調教師別の勝利数を見ると、川島正行調教師、佐藤賢二調教師が3勝でトップタイ、岡部猛調教師、武森辰己調教師、出川克己調教師が2勝で3位タイとなっている。

■ 4～5 枠が優勢、1 枠は不振

枠番別勝利数を見ると、4 枠と 5 枠（各 8 勝）がトップタイ、7 枠（6 勝）が単独 3 位となっている。なお、1 枠（1 勝）以外はいずれも 4 勝以上だ。また、馬番別勝利数を見ると、4 番（8 勝）が単独トップ、6 番（5 勝）が単独 2 位、5 番（4 勝）が単独 3 位となっている。ちなみに、未勝利の馬番は 3 番と 16 番だけである。

<伊吹雅也>